

◎ バイオディーゼル燃料取組実態等調査の結果概要 (平成25度実績)

* 調査対象事業体

- ・バイオディーゼル燃料原料の回収・購入、バイオディーゼル燃料の製造、利用に取り組んでいる全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会会員及び会員の傘下団体
- ・バイオディーゼル燃料施策・事業に取り組んでいる市区町村
- ・その他バイオディーゼルに取り組んでいる事業者等

* 調査対象期間

- ・平成25年4月1日～平成26年3月31日における実績
(調査時期:平成26年9月)

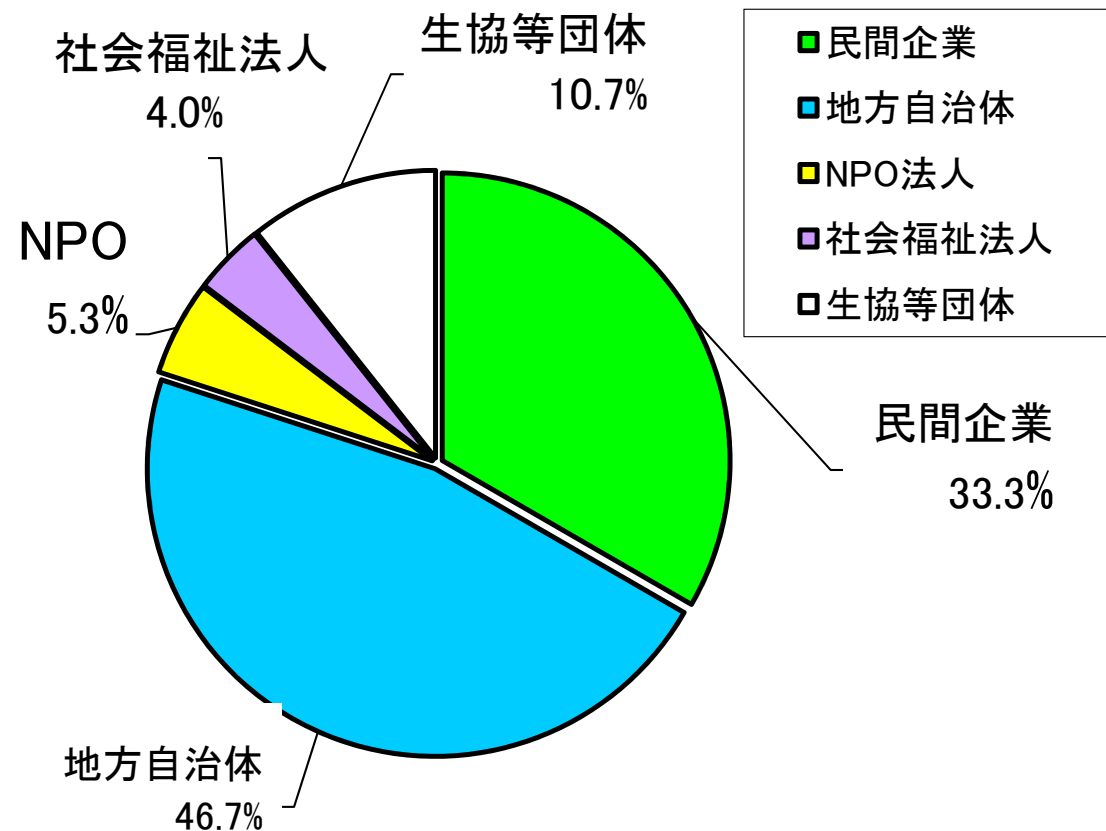
* 調査実施者

- ・全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会

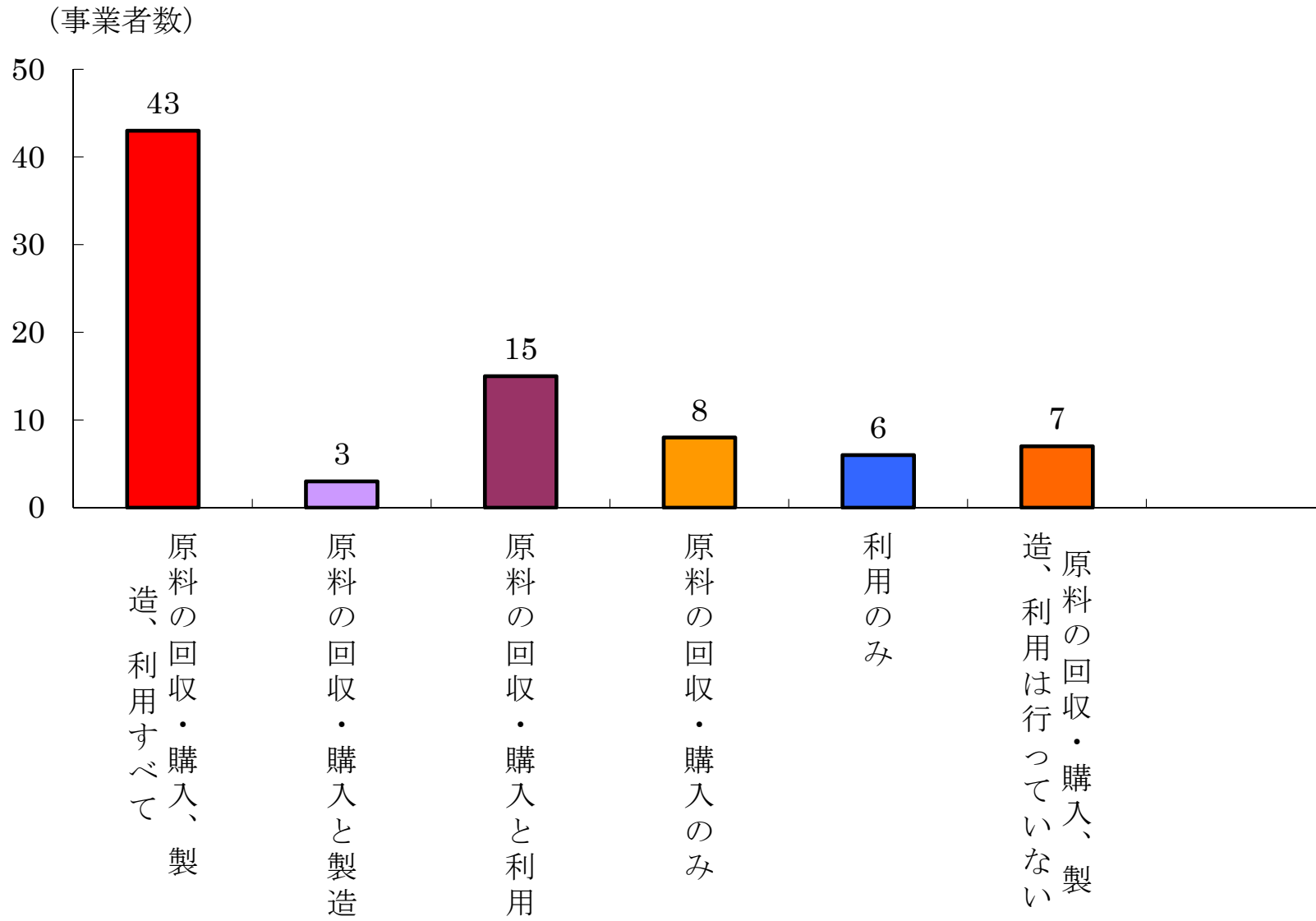
バイオディーゼル燃料の取組主体の組織

平成25年度実績のある75事業者から回答があった。（全回答は82）

組織	事業者数	割合(%)
①NPO法人	4	5.3
②民間企業	25	33.3
③地方自治体	35	46.7
④社会福祉法人	3	4.0
⑤生協等団体	8	10.7
合計	75	100.0

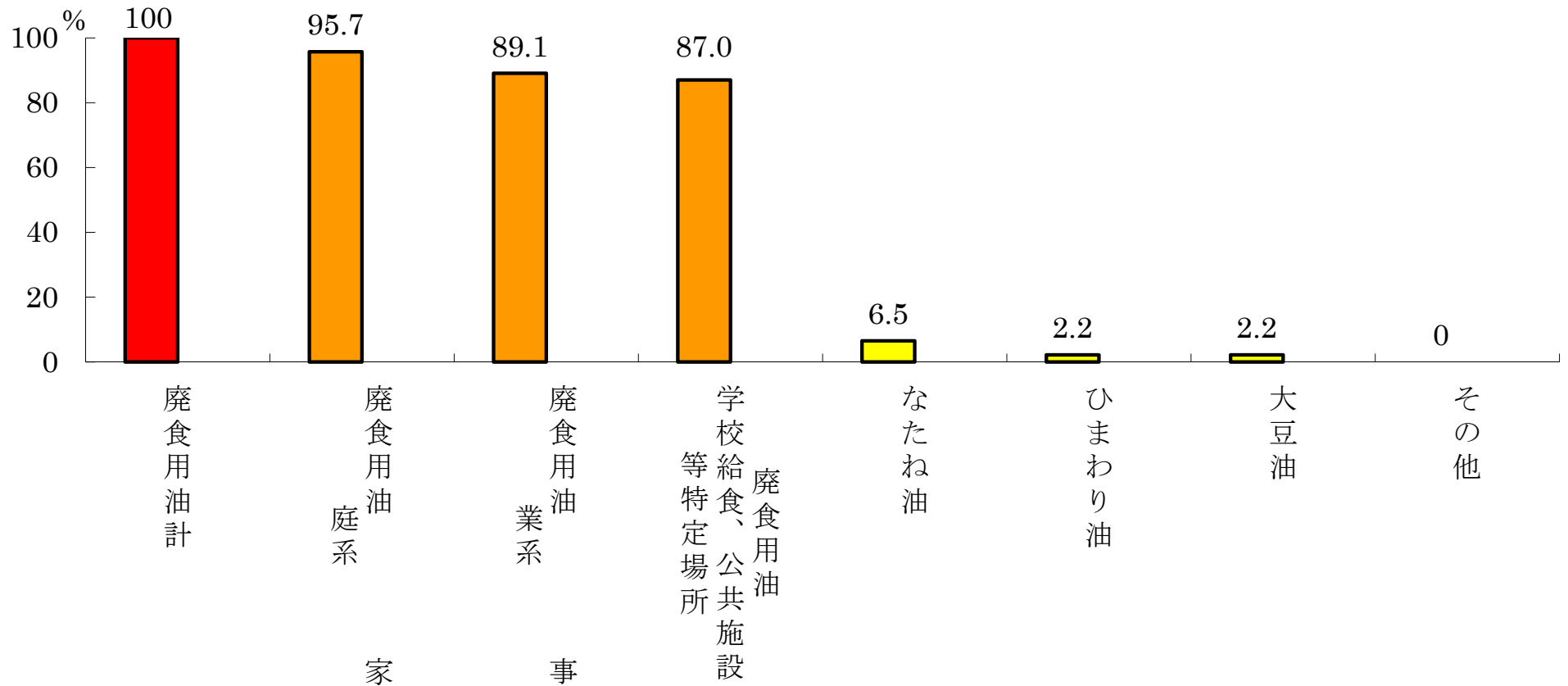


取組形態



バイオディーゼル燃料原料の種類

燃料製造者(46事業者)の全てが「廃食用油」を利用している。
前年度から原料調達先に大きな変動はみられないが、家庭系、事業系それぞれ採用率が上がっている。



製造量と製造コスト

①年間製造量：9,723kℓ(該当事業者46/平均211kℓ)

②製造率：89.6%(該当事業者45相加平均)

・投入原料から製造したバイオディーゼル燃料数量の割合

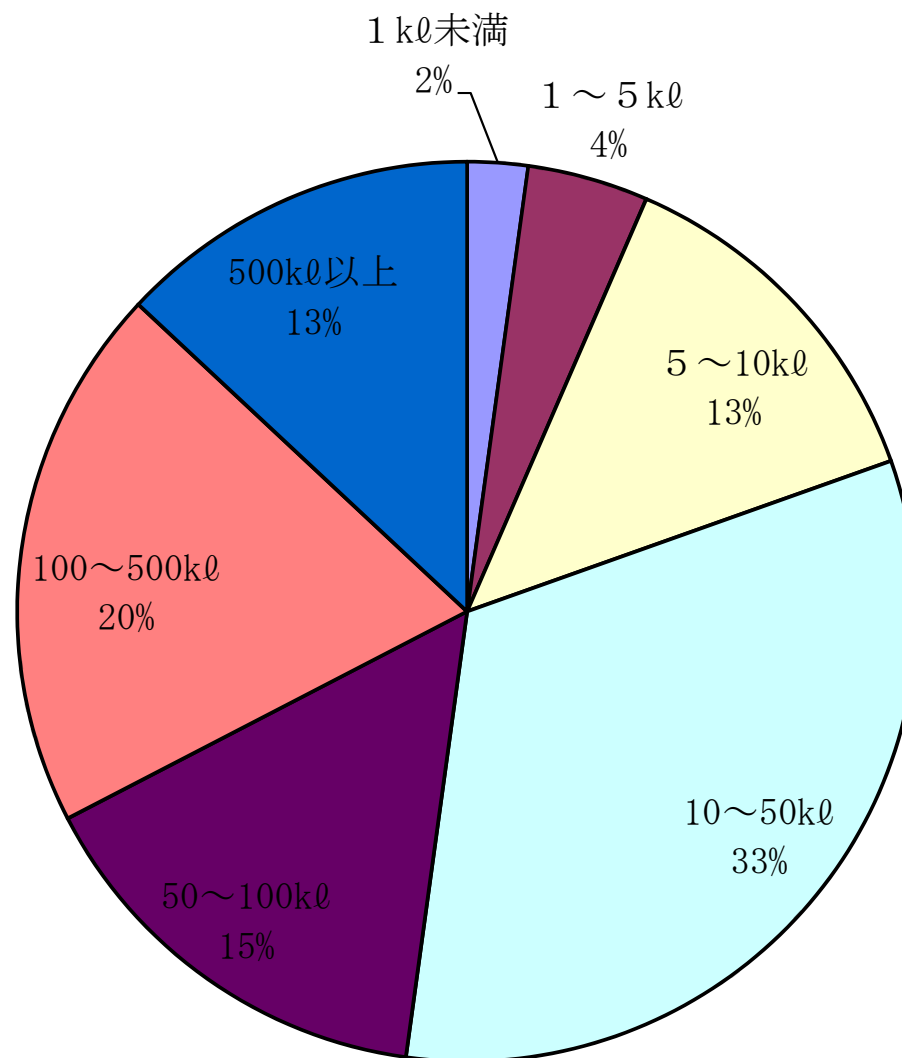
③製造コスト：101.1円/ℓ(協議会推定概算価格)

・回答39事業者単純平均は、110.0円/ℓであったが、回答のうち特に高額的事象(人件費やその他の高額を含んだ回答)を除いた場合の協議会が推定した概算水準価格である。

*なお、事業者の稼働日数は、平均166日であった。

バイオディーゼル燃料製造量の規模(年間)

1事業者あたりの製造量の規模としては、年間10～50kℓが多い。



車両等の種類別利用割合

64事業者から利用していると回答があった。

依然、ごみ収集車やトラック利用が多いが、車両以外の「発電機」や「熱源」、「建設現場」を含む「重機」（含：フォークリフト）の利用が定着してきた。また、混合回答のため反映できなかったが、トラックは依然500台超えが推測できる。

用途	ゴミ収集車	バス	スクールバス	公用車	トラック	乗用車	農林機械	建設現場	発電機	熱源	その他 (特殊自動車等)
台数	438	124	12	21	395	28	25	40	15	17	不明
事業者数	33	22	7	25	41	12	17	13	9	11	32

協議会活動に対する要望(全回答事業者82/72者から複数回答)

- ・バイオディーゼル燃料に関する情報提供
- ・軽油引取税の見直し
- ・車両以外の用途拡大の指針

などを挙げる事業者が多く、運用やアドバイスなどへの要望も含め多岐にわたっている。

